

糸田町学校施設整備基本構想

令和6年3月

糸田町

糸田町学校施設整備基本構想

令和6年3月

糸田町教育委員会
有限会社 回工房

1. はじめに	… 2
2. 計画と条件	… 3
3. 既存建物調査	… 7
4. 計画コンセプト	… 19
5. ローリング計画	… 21
6. 概算工事費	… 33
7. 概略工程表	… 34
8. 国庫補助事業調査	… 37
9. 基本計画・基本設計の指針	… 38

1 はじめに

1-1 目的

本業務は老朽化が進んでいる小学校体育館、中学校校舎及び体育館の施設整備を実施するにあたり、学校施設及び用地の現状を調査し、整備計画の課題を検討して、基本構想を作成することである。

1-2 改築の基本的な考え方

1. 高機能かつ多機能で変化に対応し得る柔軟な施設環境の整備

学校施設の改築は、今後の教育内容、教育方法の変化に対応して、多様な学習内容、学習形態やコンピューターなどの高度な教育機器の利用を可能にする高機能、多機能な教育環境を確保し、学校教育の情報化の進展などに長期に対応できるように柔軟な計画とすることが求められる。

2. 健康的かつ安全で豊かな施設環境の整備

日照、採光、通風などに配慮した良好な環境の確保とともに、障害のある児童、生徒にも十分に配慮し、防災性、防犯性など安全性を備えた安心感のある施設環境を形成することが重要である。さらに地域の自然や文化性を生かした快適で豊かな教育環境を確保するとともに、環境負荷の低減や自然との共生を考慮することが重要である。

3. 地域の生涯学習やまちづくりの核としての施設の整備

地域にとって身近な公共施設として、まちづくりの核、生涯学習の場としての活用ができるようにするためにも、施設をバリアフリーにすることや、地域の災害時の避難所としての役割を果たせる施設とすることが重要である。

(4) 計画地の注意点



正門



渡り廊下（大型車が運動場へ抜ける唯一のルート）



西門



体育館西側側道



運動場東北角の裏面

2-2 系田中学校

(1) 敷地概要

- 面積：24,242㎡ 運動場：南側 校舎：北側 体育館・プール：東側
- 西側：前面道路W6 東側：側道W4m
- 北側：側道W4.5m 南側：側道W5m

(2) 既存建物

建物名	構造階数	延べ面積	建築年度	築年数	基準・診断	建替
①校舎1（南）	RC3	2625㎡	1971	53	旧基準	○
②校舎2（中）	RC1	695㎡	1972	52	旧基準	○
③体育館	RC1	648㎡	1974	50	旧基準	○
④体育館（増）	S1	138㎡	1994	30	新基準	○
⑤校舎3（北）	RC2	964㎡	1985	39	新基準	○
⑥管理棟	RC3	811㎡	1985	39	新基準	○
⑦校舎4（南）	S3	44㎡	1997	27	新基準	○
⑧部室	S1	143㎡	2009	15	新基準	△
⑨プール	RC1	167㎡	1984	40	新基準	△
⑩武道場	S1	428㎡	1984	40	新基準	△



校舎 1



体育館

(3) 生徒数

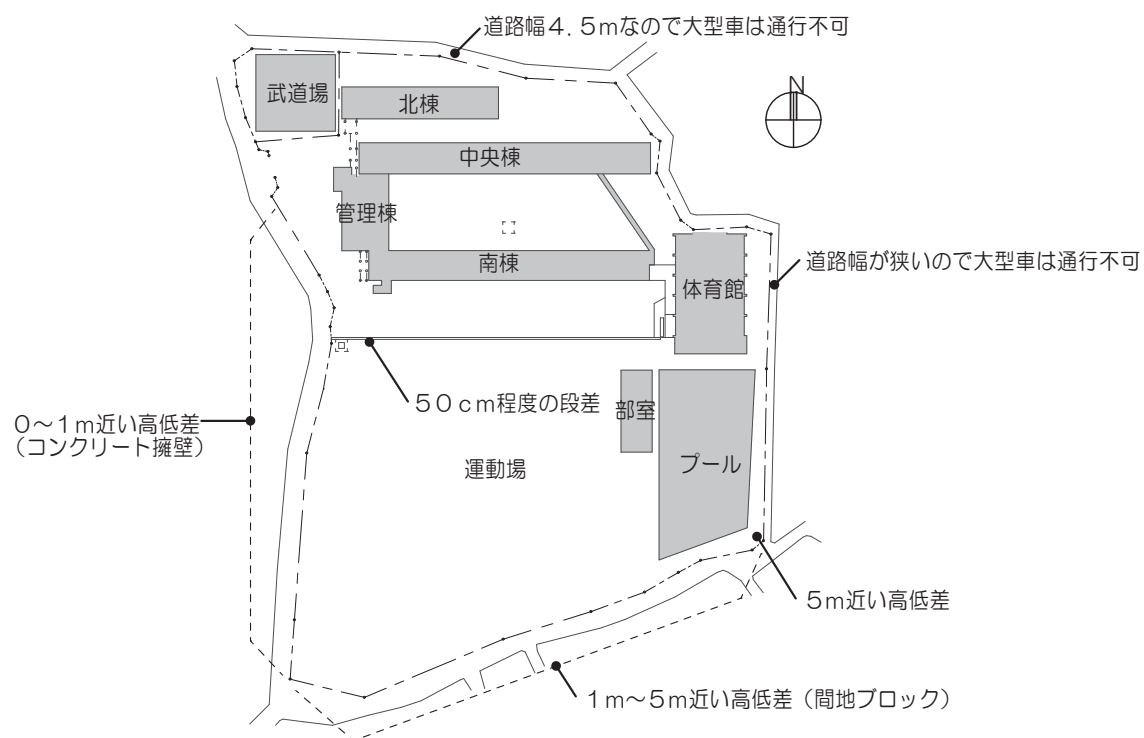
1年生	84
2年生	86
3年生	67
特別支援	12
計	249

今後生徒数は減少する方向



系田中学校

(4) 計画地の注意点



正門



運動場南西端



運動場南側



運動場南東端



運動場段差部分



北側道路

3 既存建物調査

3-1 糸田小学校

◆体育館

屋根材全面の錆、外壁の劣化、軒天の爆裂及び露筋が見られる。外部建具がスチール製でシールにパテを使用しているため水密性、気密性に問題がある。

ただし圧縮強度が 22N/mm^2 (H19 年調査) とあるので構造強度上の弱点はないが、全体の劣化度を確認するためにも耐力度調査が必要である。

3-2 糸田中学校

◆校舎

<南棟> (校舎 1+4)

H21 年に防水、外壁改修及び増築を実施しており、外壁、軒天に多少のクラック以外目立った劣化部分はなかった。圧縮強度も 22N/mm^2 あり、構造上の建替えの補助基準に入らない。

<中央棟> (校舎 2)

建物の劣化度でいうと、クラックが軒天、外壁にみられるが多くはない。建具の劣化、塗装の劣化がある。圧縮強度が 17.6N/mm^2 なので躯体の劣化は進んでいると思われる。また外部建具がスチール製で、なおかつシールにパテを使用しているため、水密性、気密性には問題がある。

<北棟> (校舎 3)

築年数が 39 年であり新耐震でもあるので、建替えの補助要件からは外れる。外壁の劣化度は比較的低い。

<管理棟>

北棟と同様である。ただし、外壁のタイルは一部浮きが見られ、地震時に落下する危険がある。

<体育館>

屋根材の腐食、外壁の劣化、軒天の爆裂が一部見られる。外部建具がスチール製でシールにパテを使用しているため水密性、気密性に問題がある。圧縮強度も 20.6N/mm^2 でやや劣化が見られる。劣化度を確認するために耐力度調査が必要である。

3-3-1 建物劣化状況



No.1

現地写真

撮影場所

小学校体育館

南面

現況

建築年度 1970年



No.2

現地写真

撮影場所

小学校体育館

東面

現況

建築年度 1970年



No.3

現地写真

撮影場所

小学校体育館

庇裏面

現況

浮き、露筋

3-3-2 建物劣化状況

	No.4
	現地写真
	撮影場所
	小学校体育館 庇裏面
	No.5
	現地写真
	撮影場所
	小学校体育館 庇裏面
	No.6
	現地写真
	撮影場所
	小学校体育館 東面
	現況
	浮き、露筋
	現況
	ひび割れ

3-3-3 建物劣化状況



No.7

現地写真

撮影場所

中学校体育館

西面

現況

建築年度 1974年



No.8

現地写真

撮影場所

中学校体育館

東面

現況

建築年度 1974年



No.9

現地写真

撮影場所

中学校体育館

北面角

現況

破損、ひび割れ

3-3-4 建物劣化状況

	No.10
	現地写真
	撮影場所
	中学校体育館
	軒裏面
	No.11
	現地写真
	撮影場所
	中学校体育館
	軒裏面
	No.12
	現地写真
	撮影場所
	中学校体育館
	軒裏面
	現況
	浮き、露筋
	現況
	浮き、ひび割れ
	現況
	ひび割れ

3-3-5 建物劣化状況

	No.13 現地写真 撮影場所 中学校管理棟 西面 現況 建築年度 1985年
	No.14 現地写真 撮影場所 中学校管理棟 東面 現況 建築年度 1985年
	No.15 現地写真 撮影場所 中学校管理棟 渡り廊下 現況 建築年度 1985年

3-3-6 建物劣化状況



No.16

現地写真

撮影場所

中学校北棟

東南面

現況

建築年度 1985年



No.17

現地写真

撮影場所

中学校北棟

北面

現況

建築年度 1985年



No.18

現地写真

撮影場所

中学校北棟

南側軒裏面

現況

建築年度 1985年

3-3-7 建物劣化状況



No.19

現地写真

撮影場所

中学校中央棟

北面

現況

建築年度 1972年



No.20

現地写真

撮影場所

中学校中央棟

南面

現況

建築年度 1972年



No.21

現地写真

撮影場所

中学校中央棟

庇裏面

現況

浮き、爆裂

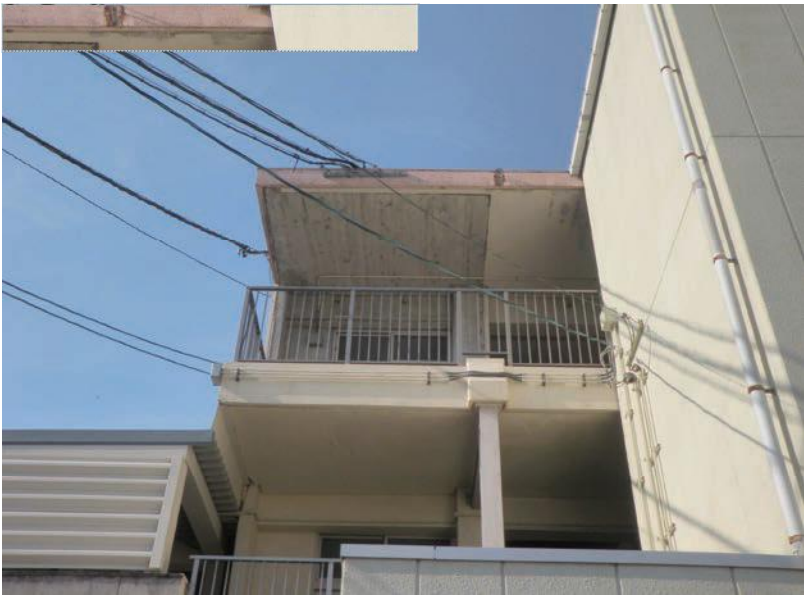
3-3-8 建物劣化状況

	No.22
	現地写真
	撮影場所
	中学校中央棟 南側柱根本
	現況 ひび割れ
	No.23
	現地写真
	撮影場所
	中学校中央棟 建具
	現況 劣化
	No.24
	現地写真
	撮影場所
	中学校中央棟 消火栓
	現況 劣化

3-3-9 建物劣化状況

	No.25 現地写真 撮影場所 中学校南棟 渡り廊下 現況 建築年度 1971年・1997年
	No.26 現地写真 撮影場所 中学校南棟 南面 現況 建築年度 1997年
	No.27 現地写真 撮影場所 中学校南棟 北面 現況 建築年度 1971年

3-3-10 建物劣化状況

	No.28 現地写真 撮影場所 中学校南棟 屋外階段 現況 建築年度 1971年・1997年
	No.29 現地写真 撮影場所 中学校南棟 北側最上階庇開口部分 現況 浮き、露筋
	No.30 現地写真 撮影場所 中学校南棟 北側庇裏面 現況 ひび割れ、爆裂

3-3-11 建物劣化状況



No.31

現地写真

撮影場所

武道場

南面

現況

建築年度 1984年



No.32

現地写真

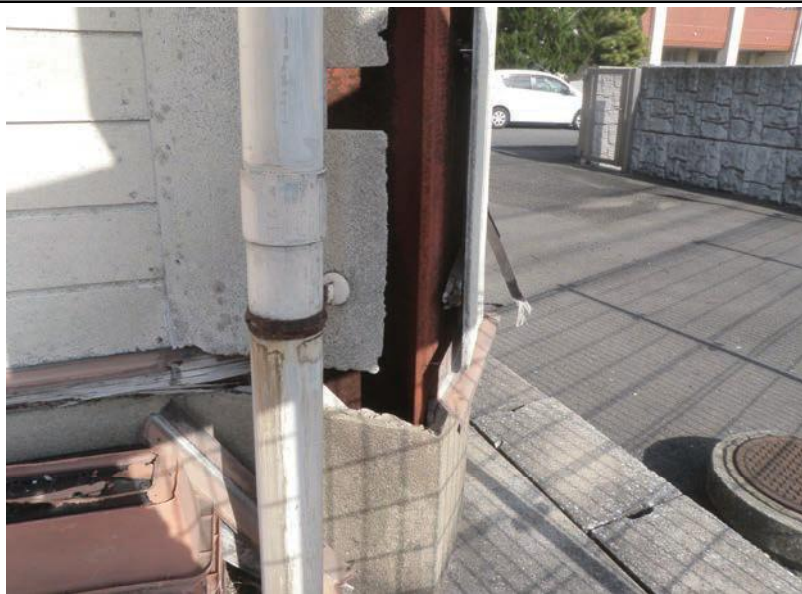
撮影場所

武道場

北西角面

現況

劣化、破損



No.33

現地写真

撮影場所

武道場

北西角面足元

現況

劣化、破損

4 計画コンセプト

4-1 小学校体育館

◆計画における目標

屋内運動場及び講堂として最新の機能と設備を備え、かつ子供にやさしい木質系空間として、地域開放時にも使いやすく、災害時の避難施設としても安全な構造を目指す。

◆完成後の利点

- ・耐震性（新耐震及び重要度係数割り増し）が増し、災害時に安心安全の建物になる。
- ・屋内運動場及び講堂として最新の機能と設備を備えた大空間となる。
- ・地域に開かれた暖かい雰囲気を使いやすい場所となる。

◆実現のための問題点、及び解決案

1. 運動場が狭いので既存体育館の位置以外で校庭の広さを保てない。また既存校舎との距離が長くなる。



既存建物の位置が最適なので、既存建物を解体した位置に体育館を改築する。

2. 給食配送車のルートが渡り廊下 C を通過する以外の選択肢がない。



配送車のルートを確認した工事仮囲いを計画する。

3. 工事アクセスルートが限られる。



大型車の出入りを正門にし、渡り廊下の屋根を工事中一時撤去して、工事車両の高さに対処する。大型車以外の出入りは西門からとする。また入出時間を児童の登下校時以外にするなど配慮する。

4-2 中学校校舎、体育館

◆計画における目標

高機能かつ多機能、健康的かつ安全で豊かな教育環境の整備、地域の生涯学習やまちづくりの核としての施設の整備とし、将来の変化に対応できるように柔軟な計画が可能な施設作りを目指す。

◆完成後に可能となる利点

教育環境の変化に柔軟に対応できる建築空間づくり、木質系で人にやさしい健康的な空間づくり、耐震性のある安心安全な空間づくりを目指す。

◆実現のための問題点および解決案

1. 現校舎の位置に建替える場合、工事アクセスがとりにくい。また仮設を利用して建替える場合、仮設費用が高い。



運動場側に校舎、体育館を改築する。

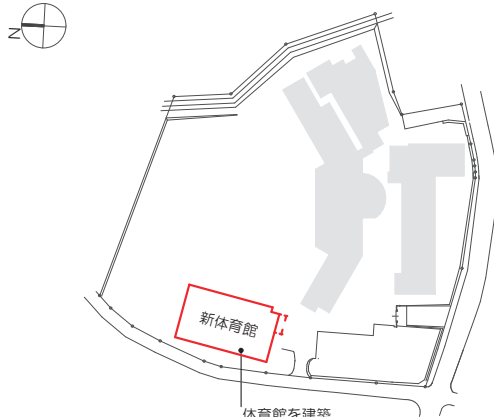
2. 武道場（北側端部）が遠くなり不便になる。



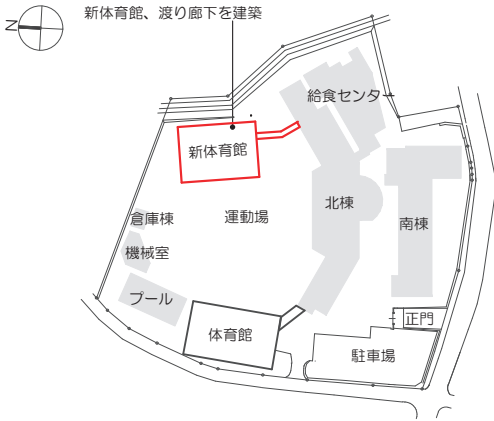
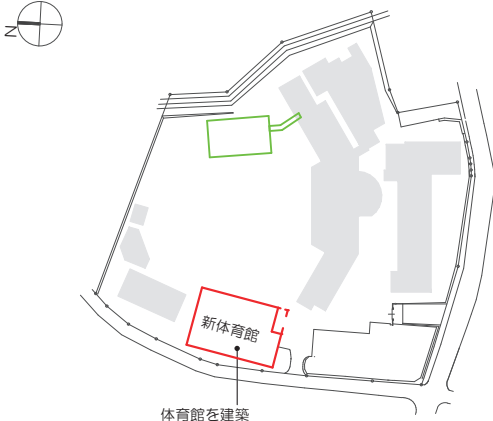
体育館に武道場を組み込んで改築する。（仮設費用と武道場の増額分がほぼ同じ）

5 ローリング計画

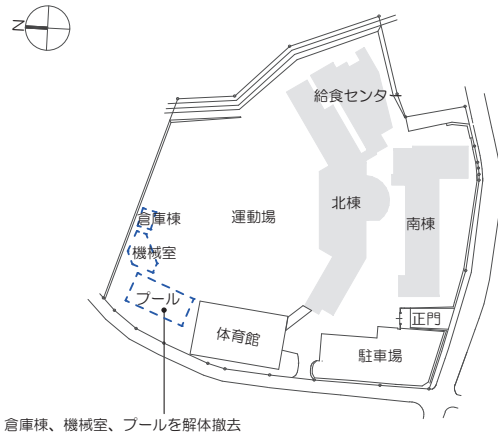
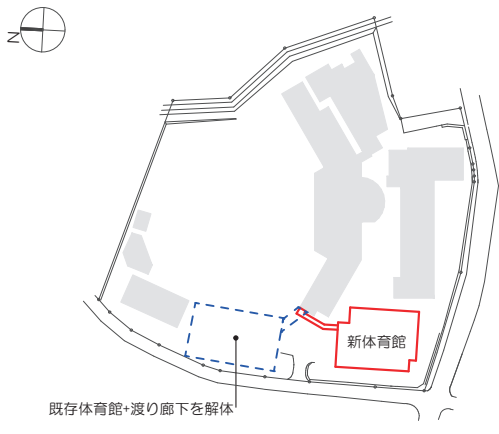
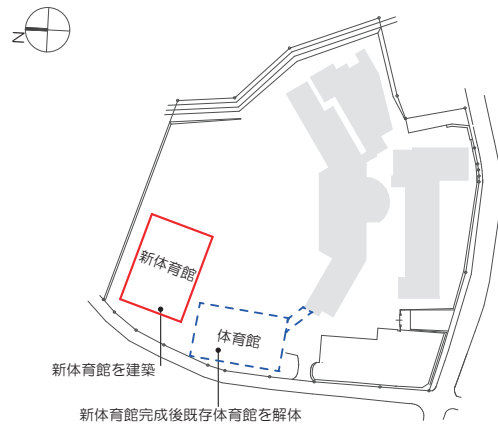
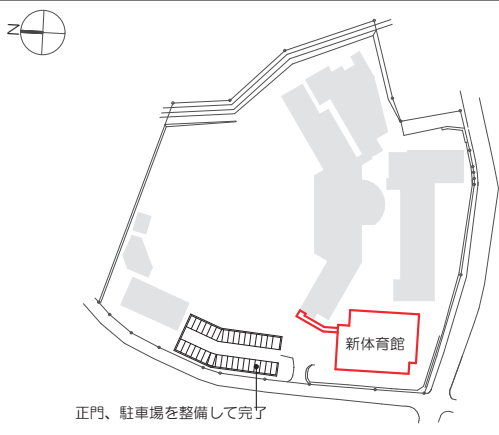
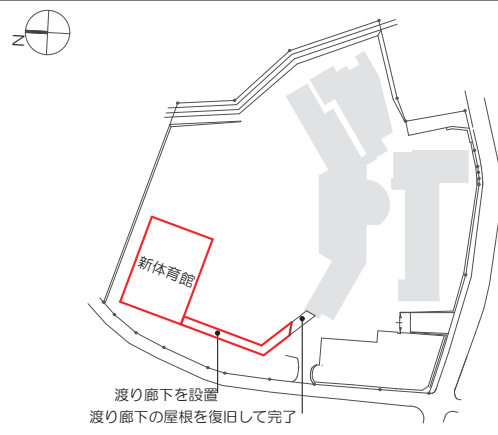
5-1-1(1) 建替計画案比較検討 糸田小学校

パターン	A1 採用案	A2 採用案
概要	既存体育館、プール他を解体して現在地に体育館、プールを改築する	既存体育館、プール他を解体して現在地に体育館を改築する
計画	 既存体育館、プール他を解体、渡り廊下屋根を一時撤去	 既存体育館、プール他を解体、渡り廊下屋根を一時撤去
	 プール、体育館を建築	 体育館を建築
	 渡り廊下の屋根を復旧する	 渡り廊下の屋根を復旧する
仮設	なし	なし
工事手順	①既存体育館、プール他を解体撤去、渡り廊下の屋根を一時撤去 ②既設体育館あとに新体育館、既存プールあとに新プールを建築 ③渡り廊下の屋根を復旧 完了	①既存体育館、プール他を解体撤去、渡り廊下の屋根を一時撤去 ②既設体育館あとに新体育館を建築 ③渡り廊下の屋根を復旧 完了 ※プールは他施設を利用
長所	1. 今までの利便性の高い位置関係で利用できる アクセスの良さ（校舎内移動、外部からの利用） 2. 運動場の面積をあまり減らさない	1. 今までの利便性の高い位置関係で利用できる アクセスの良さ（校舎内移動、外部からの利用） 2. 運動場の面積を増やす
短所	1. 工事期間中体育館、プールの使用ができない	1. 工事期間中体育館、プールの使用ができない 2. 完成後のプールが他施設利用となる
その他	・工期 15カ月 ・費用 5億8千万円（解体含む） （本体：4億1千万+プール：1億4千万+解体：3千万）	・工期 13カ月 ・費用 4億4千万円（解体含む） （本体：4億1千万+解体：3千万）

5-1-1(2) 建替計画案比較検討 糸田小学校

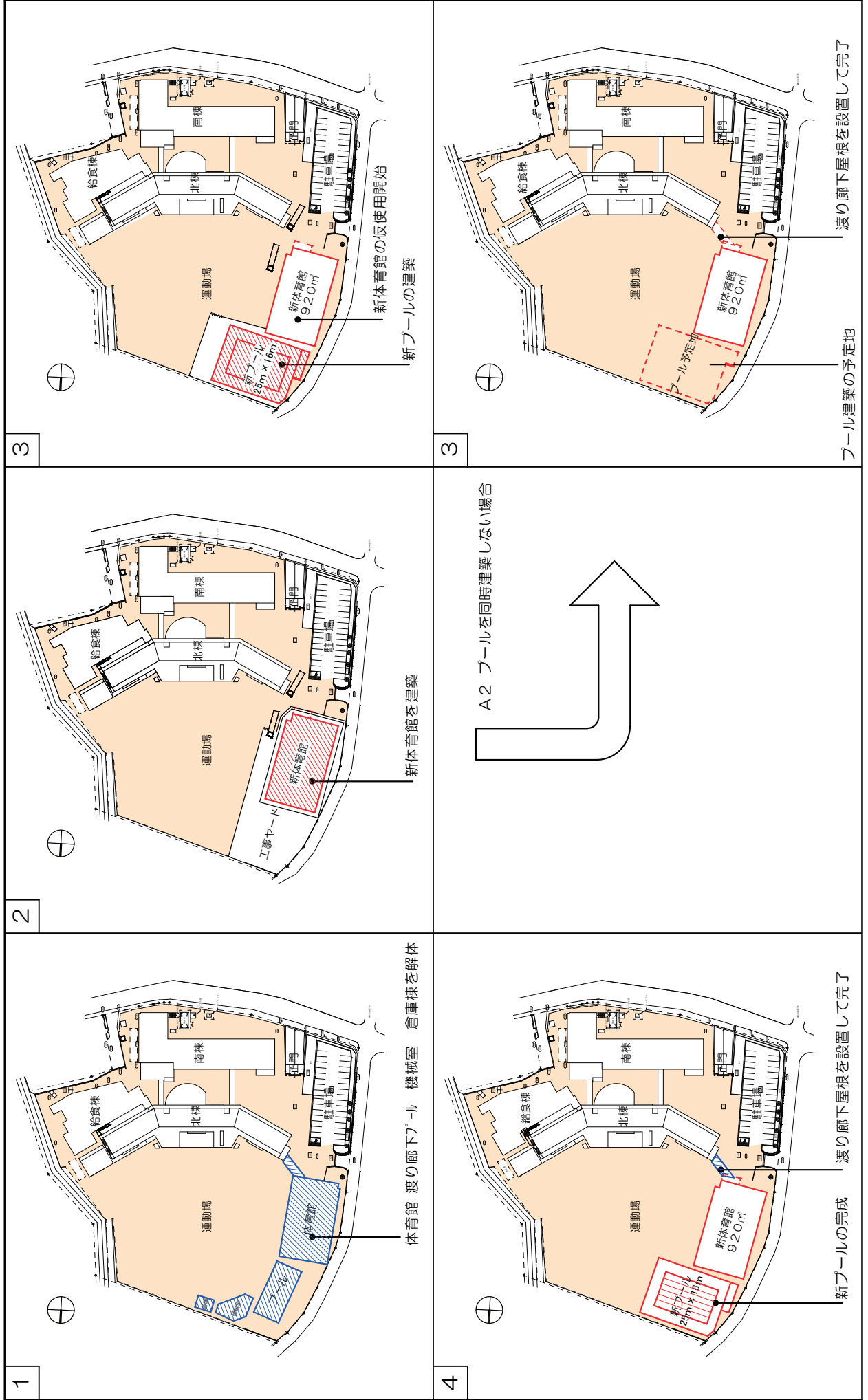
パターン	B	C
概要	仮設を利用し現在地に建替え	現在と別地に体育館を建築
計画	 仮設体育館、渡り廊下を設置 給食センター 倉庫棟 運動場 北棟 南棟 機械室 プール 体育館 正門 駐車場 既存体育館を解体、渡り廊下屋根を一時撤去	 新体育館、渡り廊下を建築 給食センター 倉庫棟 運動場 北棟 南棟 機械室 プール 体育館 正門 駐車場
	 新体育館 体育館を建築	 新体育館 体育館 既存体育館を解体撤去
	 仮設体育館、渡り廊下を撤去 新体育館 渡り廊下 渡り廊下の屋根を復旧する	
仮設	有り・工事期間中の体育館利用	なし
工事手順	①仮設体育館を設置 ②既存体育館を解体 ③既存体育館あとに新体育館を建築 ④新体育館を仮使用開始 ⑤仮設体育館を撤去 ⑥解体跡を運動場として整地 完了	①運動場北東角に新体育館を建築 ②新体育館を仮使用開始 ③既存体育館を解体撤去 ④解体跡を整地して完了
長所	1. 今までの利便性の高い位置関係で利用できる アクセスの良さ（校舎内移動、外部からの利用） 2 プールの位置と相まって運動場の面積をあまり減らさない	1. 仮設ありに比べて工費が安い 2. 比較的工期が短い
短所	1. 仮設体育館の設置、撤去費用が上乗せ 2 工期が長くなる	1. 利便性が悪くなる 2. 運動場が狭くなる 3. 工事アクセスが悪い
その他	・工期 15カ月 ・費用 5億4千万円（仮設解体含む） （仮設：1億+本体：4億1千万+解体：3千万）	・工期 13カ月 ・費用 4億4千万円（解体含む） （本体：4億1千万+解体：3千万）

5-1-1(3) 建替計画比較検討案 糸田小学校

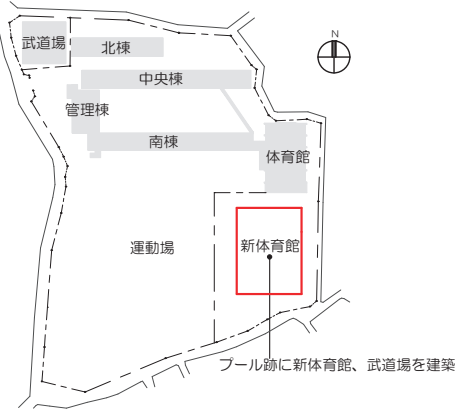
パターン	D	E
概要	現在と別地（駐車場）に体育館を建築	既存プール、機械室等を解体撤去した跡に新体育館を建築
計画	 新体育館を建築	 倉庫棟、機械室、プールを解体撤去
	 既存体育館+渡り廊下を解体	 新体育館完成後既存体育館を解体
	 正門、駐車場を整備して完了	 渡り廊下を設置 渡り廊下の屋根を復旧して完了
仮設	なし	なし
工事手順	①正門撤去、駐車場撤去 整地 ②新体育館を建築 ③新体育館を仮使用開始 ④新体育館を仮使用開始 ⑤既存体育館を解体撤去 ⑥解体跡を駐車場として整地 完了	①既存プール、機械室、倉庫棟を解体撤去 ②同地に新体育館を建築 ③既設体育館を解体撤去 ④渡り廊下を設置して完了
長所	1. 正門移動などあるが、仮設ありより安く収まる 2. 既存の体育館の位置とほぼ変わらないので、利便性は高い 3. 運動場が改築前と変わらない	1. 建設中に体育館の使用が可能 2. 比較的工期が短い
短所	1. 建設中の駐車場を別地に手配しなければならない 2. 正門付近での工事になるので、児童の動線と交錯する懸念がある 3. 給食配送車のルートがなくなる	1. 利便性が悪くなる 2. 運動場が狭くなる 3. プールは他施設利用となる
その他	・工期 15カ月 ・費用 4億6千万円（解体含む） （本体：4億1千万円+解体：3千万円+外構：2千万円）	・工期 13カ月 ・費用 4億4千万円（解体含む） （本体：4億1千万円+解体：3千万円）

5-1-2 ローリング案 糸田小学校

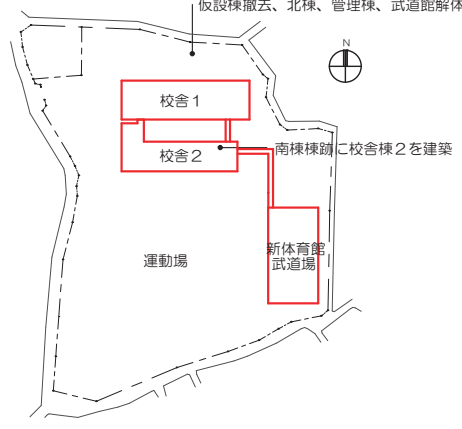
A1 既設体育館とプールを同時に解体して体育館とプールを改築する A2 既設体育館とプールを同時に解体して体育館を改築する



5-2-1(1) 建替計画案比較検討 糸田中学校

パターン	A 採用案	B 採用案
概要	プール解体跡に新体育館を建築、運動場に校舎を建築する	運動場に体育館を建築、プール解体跡に校舎を建築する
計画	 プール跡に新体育館、武道場を建築	 運動場に新体育館、武道場を建築
	 新校舎を建築	 プール解体跡に校舎を建築
	 校庭を整備して完了 正門（想定）	 校庭を整備して完了 正門（想定）
仮設	なし	なし
工事手順	①プール+部室を解体して体育館を建築 ②運動場南側に校舎棟を建築 ③既存建物を解体撤去 ④運動場を整備して完了	①プール+部室を解体 ②運動場南西面に体育館を建築 ③運動場南側+プール解体跡地に校舎棟を建築 ④既存建物を解体撤去 ⑤運動場を整備して完了
長所	1. 建設期間中の運動場、体育館の使用が可能 2. 工事場所が現校舎と離れているので、騒音が少なく、安全である 3. 工事ヤードもしっかり確保できるので、工事がやりやすい 4. 管理部門が正門に近い	1. 建設期間中の運動場、体育館の使用が可能 2. 工事場所が現校舎と離れているので、騒音が少なく、安全である 3. 工事ヤードもしっかり確保できるので、工事がやりやすい 4. 体育館の地域開放に対して正門に近くて便利である
短所	1. 工事期間中は運動場が一部しか使えない 2. 一気に工事を進める場合、建築費がまとまって必要となる 3. 運動場の整備に費用がかかる 4. 体育館の地域開放に対して正門から遠くて不便である	1. 工事期間中は運動場が一部しか使えない 2. 一気に工事を進める場合、建築費がまとまって必要となる 3. 運動場の整備に費用がかかる 4. 管理部門が正門から遠くなる
その他	・工期 27カ月 ・費用 22億1千万円 （本体：20億1千万+解体：2億）	・工期 27カ月 ・費用 22億1千万円 （本体：20億1千万+解体：2億）

5-2-1(2) 建替計画案比較検討 糸田中学校

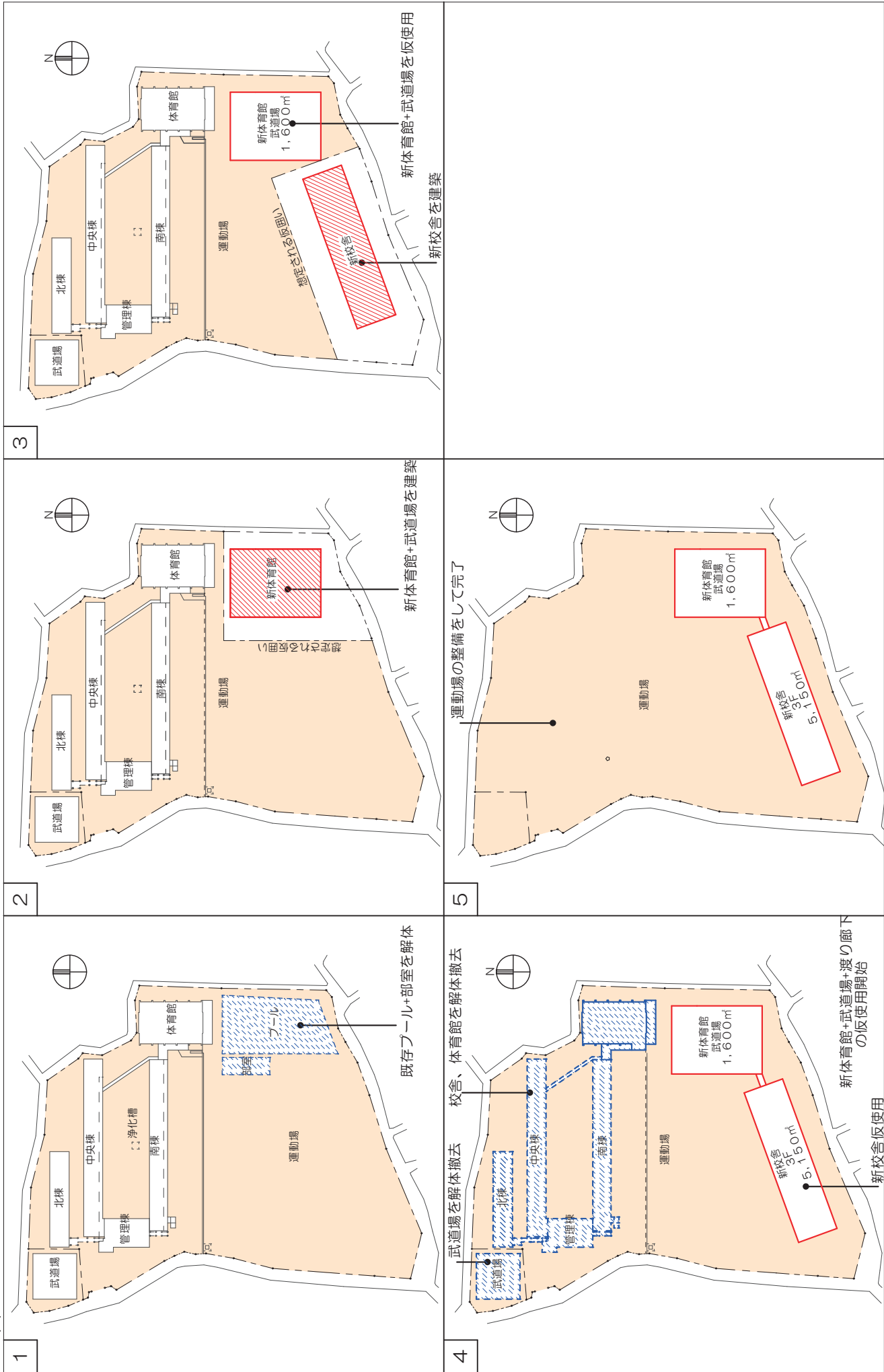
パターン	C	D
概要	仮設を利用し中央棟を解体したあとに校舎を建築する	仮設を利用し中央棟を解体したあとに校舎を建築する
計画	 特別教室仮設を設置 武道場 北棟 仮設棟 中央棟 管理棟 南棟 体育館 運動場 新体育館 プール跡に新体育館、武道場を建築	 特別教室仮設を設置 武道場 北棟 仮設棟 校舎1 中央棟跡に校舎棟1を建築 管理棟 南棟 体育館 運動場 新体育館 武道場 プール跡に新体育館、武道場を建築
	 校舎棟を建築 校舎 新体育館 武道場	 特別教室仮設を設置 校舎1 中央棟跡に校舎棟1を建築 南棟、体育館を解体 運動場 新体育館 武道場
	 校舎 渡り廊下を設置して完了 新体育館 武道場	 仮設棟撤去、北棟、管理棟、武道館解体 校舎1 校舎2 南棟棟跡に校舎棟2を建築 運動場 新体育館 武道場
仮設	有り（技術室、音楽室）	有り（技術室、音楽室）
工事手順	① プール+部室を解体して体育館を建築 ② 仮設特別教室を設置して、中央棟を解体 ③ 中央棟跡に校舎棟を建築 ④ 渡り廊下を設置 ⑤ 仮設撤去、既存校舎棟、体育館を解体撤去して完了	① プール+部室を解体して体育館を建築 ② 仮設特別教室を設置して、中央棟を解体 ③ 中央棟跡に校舎棟1を建築 ④ 南棟を解体、その地に校舎2を建築 ⑤ 仮設撤去、不要棟を解体撤去、渡り廊下を設置して完了
長所	1. 建設期間中の運動場、体育館の使用が可能 2. 工事範囲がまとまっているので工事管理はやりやすい。 3. 運動場の整備が不要	1. 建設期間中の運動場、体育館の使用が可能 2. 工事年度が複数年に渡るので、年度の支出額は少ない 3. 運動場の整備が不要
短所	1. 限られたスペースでの建替えなので、設計の自由度が低い 2. 建築場所と生徒の動線が近接しているため、安全度が低い 3. 仮設建築の分工事が増える 4. 工事アクセスが限られるので工事がやりにくい 5. 校舎と体育館の距離が離れている。校舎と残地のバランスが悪い	1. 限られたスペースでの建替えなので、設計の自由度が低い 2. 建築場所と生徒の動線が近接しているため、安全度が低い 3. 分割して工事を行うので工期が長い 4. 仮設建築の分工事が増える 5. 工事アクセスが限られるので工事がやりにくい
その他	・工期 34カ月 ・費用 22億6千万円 (本体：20億1千万+解体：2億+仮設：5千万)	・工期 34カ月 ・費用 22億7千万円 (本体：20億1千万+解体：2億+仮設：6千万)

5-2-1(3) 建替計画案比較検討 糸田中学校

パターン	E	
概要	仮設を利用し中央棟、南棟、管理棟の解体跡に校舎、体育館を建築する	
計画	北棟、中央棟、管理棟、渡り廊下を解体 武道場 北棟 中央棟 管理棟 南棟 体育館 仮設：管理・特別教室群棟を設置 仮設棟 運動場	
	校舎、体育館を建築 武道場 新校舎 新体育館 南棟 体育館 仮設：管理・特別教室群棟を設置 仮設棟 運動場	
	南棟、体育館を解体撤去 仮設棟を撤去 武道場 新校舎 新体育館 運動場	
仮設	有り（管理・特別教室群）	
工事手順	①仮設を設置後管理棟、北棟、中央棟を解体撤去 ②管理棟、北棟、中央棟跡に校舎棟、体育館を建築 ③南棟を解体 完了	
長所	1. 建設期間中制限されるが運動場、体育館の使用が可能 2. 工事範囲がまとまっているので工事管理はやりやすい。 3. 運動場の整備が不要	
短所	1. 限られたスペースでの建替えなので、設計の自由度が低い 2. 建築場所と生徒の動線が近接しているので、やや安全度が低い 3. 仮設建築の分工事が上乗せになる	
その他	・工期 34カ月 ・費用 23億6千万円 （本体：20億1千万＋解体：2億＋仮設：1億5千万）	

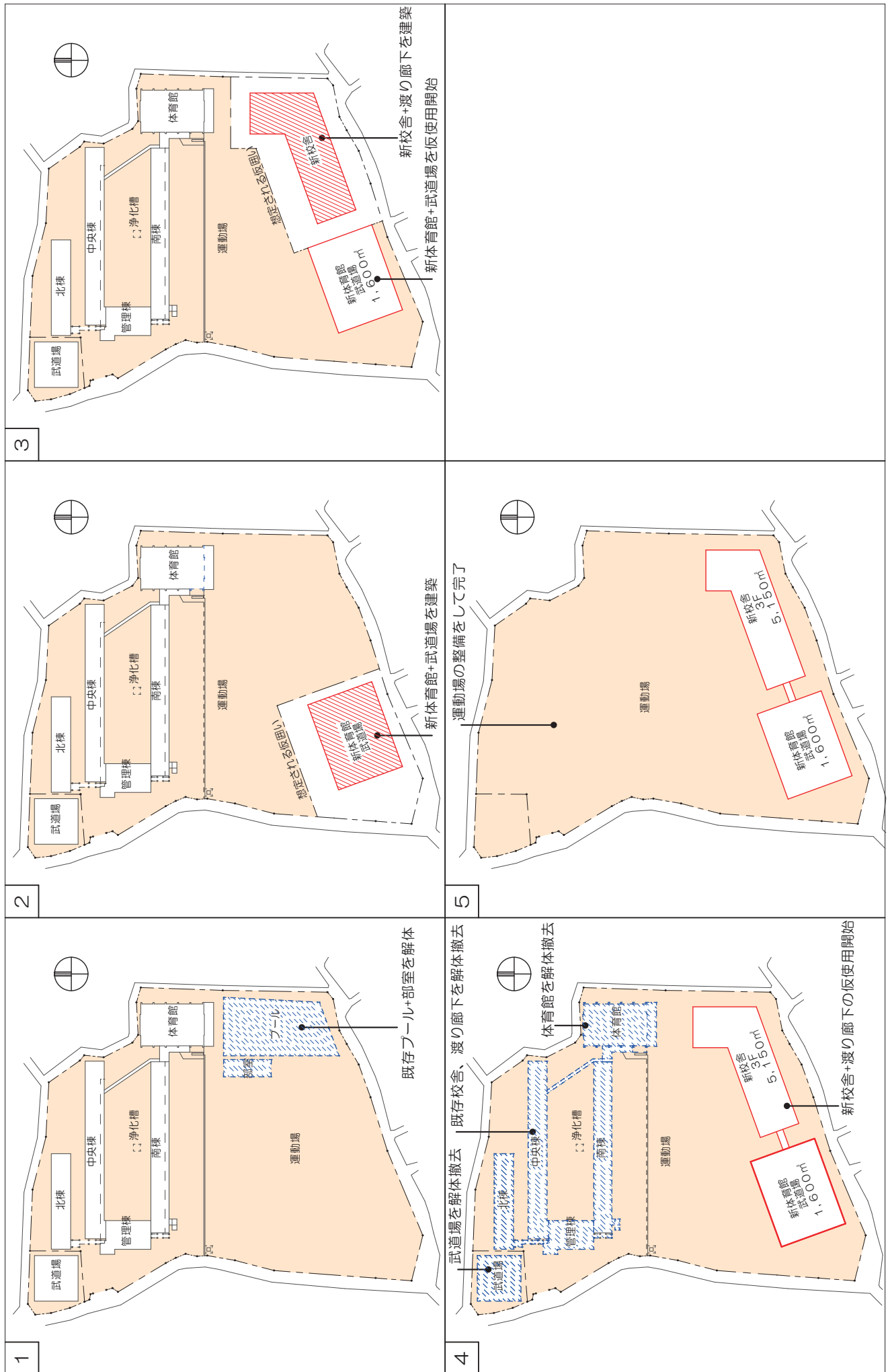
5-2-2 (1) ローリング案 糸田中学校

A 運動場に新校舎、新体育館+武道場を建築する



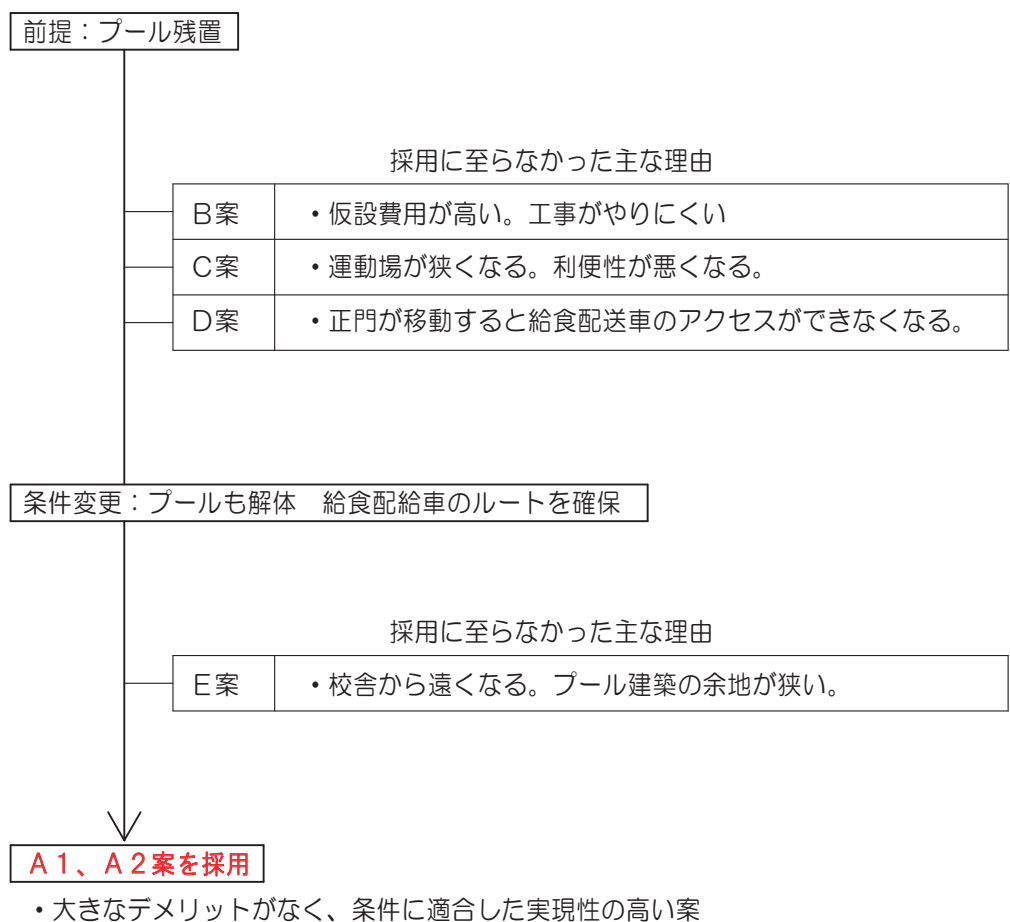
5-2-2 (2) ローリング案 系田中学校

B 運動場に新校舎、新体育館+武道場をパターンAとは配置を変えて建築する



5-3 採用案を決定した経緯

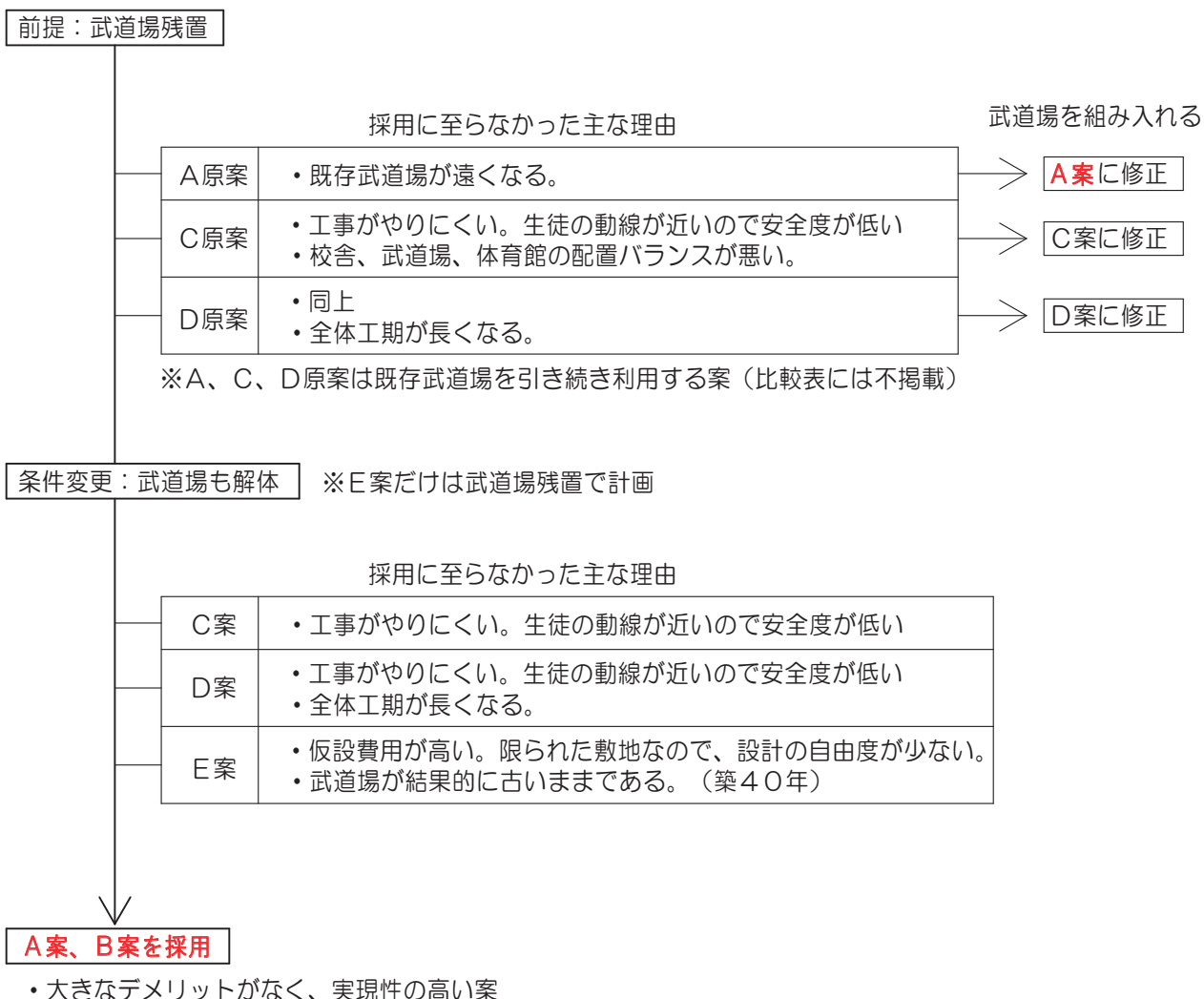
1. 糸田小学校



◇検討経緯

- ・体育館建替え候補地として考えられるエリアは現在地（A・B）、運動場東側（C）、現在の駐車場+正門（D）、及び運動場の北西部・プールの位置（E）の4カ所である。
- ・採用案（A）は現在地での建替え案で、仮設体育館をつくらない案である。工事中の体育授業の課題はあるが、別の施設での代替えの可能性があるので採用案となる。
- ・東側案（C）は4m以上の崖の擁壁を改良する必要があり、崖下が民地のため施工が困難である。
- ・D案は正門と駐車場を西側道路に移設することになるが、西側道路が狭いので、完成後は登下校時に児童と車の混雑が予想され危険である。
また、エントランス空間が体育館と校舎に挟まれて窮屈となる。
- ・E案はプールを将来とも別の施設を利用するということなら可能であるが、建設の余地を残すということであれば難しい。それに渡り廊下が長くなる。

2. 糸田中学校



◇検討経緯

- ・採用案（A、B）は、運動場の南側に校舎・体育館・武道場を建築して、北側の既存校舎群を解体して、運動場に整備する案であるが、この案は仮設建物を作る必要がなく、既存建物による制約がないので自由な発想で設計できる。工事中の生徒の勉学にも支障が少ないという利点がある。

短所としては、一齐に工事を進める場合は建設費がかかる。何期かに分ける事になると、既存校舎と新設建物との連携が一時的に遠くなる。

- ・不採用になったC案、D案はいずれも既存校舎の中央棟（旧基準）を解体して、そこに新校舎
工事中の生徒の安全度の懸念、工事の難易度、設計における既存校舎の制約、その上に完成時のバランスが良くない。

工事については、大型車両の搬入口が確保できない可能性が高い。

- ・E案は武道場を建替えない案で、従って既存校舎のエリアに建替える案である。
仮設校舎を建ててから、北棟と中央棟、管理棟を解体してその位置に新校舎、体育館を建てるというものであるが、短所としては仮設費が高い、設計の自由度が少ない、完成時のバランスが良くない等である。

6 概算工事費

6-1 糸田小学校

◆体育館

920㎡ × 45万円/㎡ 4億1千万円

◆プール

820㎡ × 17万円/㎡ 1億4千万円

◆体育館、プール、付属棟：解体

697㎡ × 2.5万円/㎡（体育館） 1千7百万円

875㎡ × 1.5万円/㎡（プール+付属棟） 1千3百万円

項目	概算
体育館	4億1千万円
プール	1億4千万円
解体	3千万円

6-2 糸田中学校

◆校舎

5,150㎡ × 25万円/㎡ 12億9千万円

◆体育館+武道場

1,600㎡ × 45万円/㎡ 7億2千万円

◆校舎、体育館、武道場、プール、付属棟：解体

5,139㎡ × 3万円/㎡（校舎） 1億5千万円

1,214㎡ × 2.5万円/㎡（体育館+武道場） 3千万円

1,479㎡ × 1.5万円/㎡（プール+付属棟） 2千万円

項目	概算
校舎	12億9千万円
体育館+武道場	7億2千万円
解体	2億0千万円

※建築概算は 建築着工統計調査（国交省）2022年度を元に作成された学校の
建築費水準を参考にして算出

7 概略工程表

7-1 糸田小学校

1) 計画・設計 (体育館+プール)

年	1												2											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基本計画	基本計画																							
基本設計					基本設計												確認申請							
実施設計										実施設計														

2-1) 工事 (体育館 プール同時発注の場合)

年	3												4											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
工 事	準備	解体																						
				準備	体育館+プール建設工事											整地								

2-2) 工事 (体育館 プール分離発注の場合)

年	3												4											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
工 事	準備	解体																						
				準備	体育館 建設工事								準備	プール 建設工事				整地						

2-3) 工事 (体育館単独発注の場合)

年	3												4											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
工 事	準備	解体																						
				準備	体育館 建設工事								整地											

7-2-1 糸田中学校

1-1) 計画・設計 校舎+体育館 一体計画、設計の場合

年	1												2											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基本計画	基本計画																							
基本設計								基本設計																
実施設計																	実施設計							

3											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		確認申請									
実施設計											

1-2) 計画・設計 校舎 単独計画、設計の場合

年	1												2											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基本計画	基本計画																							
基本設計								基本設計														確認申請		
実施設計														実施設計										

1-3) 計画・設計 体育館+武道館 単独計画、設計の場合

年	1												2											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基本計画	基本計画																							
基本設計								基本設計													確認申請			
実施設計														実施設計										

7-2-2 糸田中学校

2-1) 工事（校舎 体育館+武道場一体発注の場合）

年	3												4											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
工 事	準備	解体																						
			準備	校舎 体育館+武道場 建設工事																			解体	

5											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
解体											
	整地										

2-2) 工事（体育館+武道場 単独発注の場合）

年	3											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
工 事	準備	解体										
			準備	体育館+武道場 建設工事								

2-3) 工事（校舎 単独発注の場合）

年	3												4											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
工 事																								
	準備	校舎 建設工事															準備	解体			整地			

7-3 整備を実施する優先順位

築年数及び中学校ローリング計画あるいは生徒減少による規模の適正化を判断材料として下記のように決定

- ①小学校体育館
- ②中学校体育館
- ③中学校校舎

8 国庫補助事業調査

8-1 改築に係る交付金対象事業

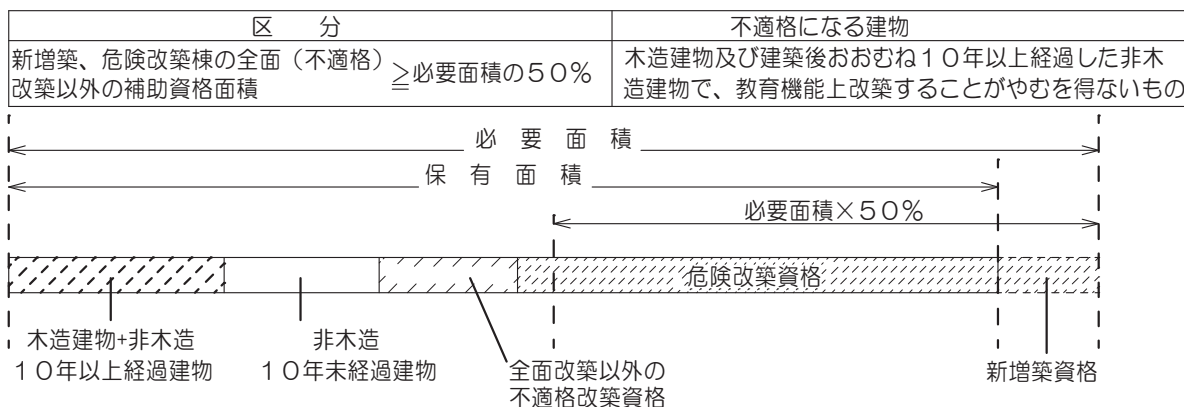
1) 趣旨

構造上危険な状態にある義務教育諸学校の建物について、その改築に要する経費の一部を交付し教育条件の改善を図る。

2) 不適格改築の対象となる建物

1. 耐震力不足建物の条件を満たすもの

2. 全面改築の条件を満たすもの

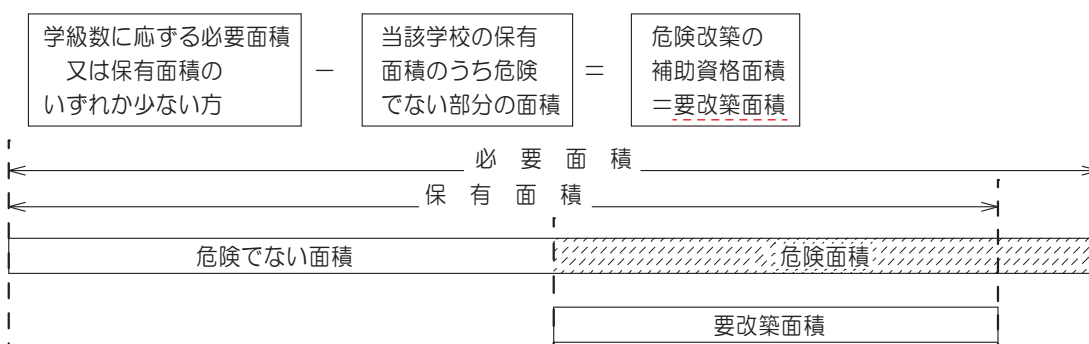


3) 交付金の算定割合

区 分	原則の補助率	過疎地域の補助率
校舎等の改築	1/3	5.5/10

4) 補助資格面積の算定方法

改築事業において、交付資格のある面積を要改築面積といい、算定方法は以下の通り



8-2 資格面積

資格面積の算定

1) 必要面積

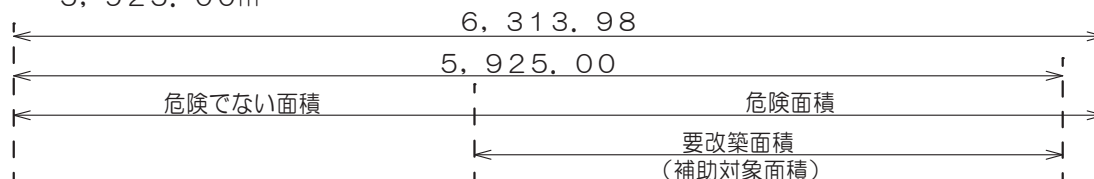
(3, 181 + 324 (9-6) + (168 × 3) × 多目的教室補正 1.105 + 1, 138 = 6, 313.98m² 屋内運動場

N: 普通教室数 9

n: 特別支援教室数 3

2) 保有面積

5, 925.00m²



8-3 補足

現校舎、体育館のうち補助基準の危険度判定内を満たすものは確認されていないので、体育館を含めて再度耐力度調査の実施が必要である。また、柔剣道場については450m²を上限に新築、改築の事業に1/3の補助対象である。

9 基本計画・基本設計の指針

9-1 小学校体育館

◆パブリックコメントの実施

基本構想に基づく下記の項目について住民の意見を聴取。

- ・体育館の配置と工事期間中の外部利用の確認
- ・プールの位置と外部委託について
- ・工事中の工事車両と騒音問題について
- ・生涯学習等の町民活用について

◆多様な使い方を予測

- ・屋内運動場としての機能のほかに、講堂として入学式・卒業式・講演会等の使用に適した音響・照明等の整備。
- ・地域開放や災害時の避難所としてのあり方の追求。
- ・子供たちと地域住民の楽しいイベント会場として。

◆既存建物との関係

- ・既存校舎とは渡り廊下で接続することになるが、給食配送者が横切るルートになる。ルート変更を含めた検討が必要。
- ・デザイン的な一体感ができないか。

9-2 中学校校舎、体育館

◆パブリックコメントの実施

基本構想に基づく下記の項目について住民の意見を聴取

- ・校舎及び体育館の配置と工事期間中の運動場の使用制限について
- ・プールの外部委託について
- ・武道場の建て替えと配置について
- ・工事中の工事車両と騒音問題について
- ・地域開放について

◆ローリング計画

- ・校舎全体と体育館及び武道場を一斉に建て替えることができれば理想であるが、そうはいかない場合は、最終形を想定して最終的に理想に近い形になるように進める。
- ・工事中の生徒の安全確保と生徒の動線検討。

◆柔軟性と自然素材

- ・人口減やＩＴ技術の進展など将来予測が難しい背景があり、固定的なプランニングではなく柔軟性のある計画が望ましい。
- ・構造躯体はＲＣ造でシンプルにして、造作材は可変性のある木造とする。

◆体育館と武道場

- ・体育館と武道場の併設が可能な場合はメリットも大きいですが、不可の場合はレイアウトの変更も検討。

